

1 題材 郷土の音楽～オリジナルおはやしをつくろう！

2 目標

郷土の伝統音楽の和太鼓・鉦の特徴を感じ取り，音色・速度・強弱を工夫しながら，思いを伝え合っておはやしをつくる。

3 本題材で位置付ける〔共通事項〕

本題材において知覚し，感受する音楽を形づくっている要素のとらえ	
音色	和太鼓や鉦の音色，おはやしの雰囲気にあうような楽器の奏法によるさまざまな音色
速度	おはやしの雰囲気を表現するのにふさわしい速度
強弱	おはやしの雰囲気を表現するのにふさわしい強弱

4 研究主題に迫るために

(1) 生徒の実態

《表1》主体的な学習態度の調査結果

表1は，授業全般への取り組みに対する調査である。課題解決のために，意欲をもって努力・協力している様子がうかがえる。

本題材では，課題解決のために3「自主」・4「協力」の力を伸ばしたいと考える。

また，できあがった作品を発表し，聴き合う活動を通してお互いのよさを認め合いたい。そうすることが「表現力」を高めることにつながるものと考えているからである。

質問内容	回答結果
1 授業を意欲(やる気)をもって取り組んでいますか。	3.3 / 4.0
2 授業の中で課題を理解して解決しようとしていますか。	3.3 / 4.0
3 課題解決のために自分から努力していますか。	3.1 / 4.0
4 課題解決のため友人と協力して取り組んでいますか。	3.2 / 4.0
5 課題解決のために最後まで努力していますか。	3.2 / 4.0
6 自分の考えをみんなの前で話したり，発表していますか。	2.8 / 4.0

\* 回答結果は，4点満点の自己評価を平均したものである。

《表2》既習事項の調査結果

1 音楽科の学習で意欲的に取り組める活動内容を次から選びましょう。(複数回答) 表現 40人 (歌唱20・器楽18・創作2) 鑑賞 15人
2 「こげよマイケル」やヴォイス・アンサンブルでのリズムづくりへの自己評価を答えましょう。 意欲的に取り組んだ 19人 普通 14人 取り組めなかった 0人
3 これまでに我が国や郷土の伝統音楽を体験したことはありますか。 ある 26人 ない 7人
4 3「ある」と答えた人は，これまでに体験したことのあるものを答えましょう。(複数回答) 歌(民謡，おはやしなど)9人 楽器(太鼓，笛など)17人 踊り 8人

表2のアンケートの結果や授業の観察から，生徒は音楽活動全般に対して意欲的な取り組みができる。表現の一つである創作への回答(表2の1)が少ないことは，これまでその活動に取り組む機会が少なかったことに起因している。この実態を踏まえ，これまで「こげよマイケル」やヴォイス・アンサンブルを題材にリズムづくりを行ってきた。これらの活動は読譜や記譜が苦手な

生徒でも平易に取り組めることから、生徒は楽しみながら活動することができた。

我が国や郷土の伝統音楽については、小学校でのYOSAKOIソーランへの取り組みや地域の祭りへの参加を通して生徒の約80%が「体験したことがある」と答えている。

## (2) 題材観

《表3》茨城町の伝統音楽への認知度の調査

1	茨城町の「小幡ひょっこばやし」を知っていますか。
	知っている 18人      知らない 15人
2	1で「知っている」を選んだ人の中で、実際に演奏したことはありますか。(複数回答)
	踊り 7人(おかめ 2・ひょっこ 5)
	楽器 10人(太鼓 6・笛 2・鉦 2)
	知っているがやったことはない 7人

本題材では、郷土の伝統音楽の和太鼓・鉦の特徴を感じ取り、音色・速度・強弱を工夫しながら、思いを伝え合っておはやしをつくることをねらいとしている。

日本各地の郷土の音楽を鑑賞することにより、生徒が表現したいおはよしのイメージを広げ、音素材である太鼓や鉦の音色(奏法)の特徴を生かして、速度や強弱を工夫しながら、オリジナルのおはやしづくりを行う。ここでは、生徒にとって身近な郷土の音楽「小幡ひょっこばやし」の笛の旋律にふさわしいリズム伴奏をつくる。

この活動によって、思いを伝え合って創作する楽しさや喜びを実感できるようにしたい。また、(1)で述べたように、我が国や郷土の伝統音楽を体験したことがあると答えた生徒が80%を占めるのにもかかわらず、表3によると最も身近な郷土の伝統音楽への認知度が54%にとどまっている。このような生徒の実態を踏まえ、我が茨城町の伝統音楽のよさを再認識し、郷土の音楽への理解と愛着を深められるようにすることで、本時のねらいと併せて、研究主題である「主体的な学習態度」の育成を目指したい。

## (3) 指導観

本題材における活動では、「主体的な学習態度」を「生徒一人一人が表現したいイメージを持ち、その思いを伝え合うこと」ととらえる。本時導入では、前時に個々が思い描いたおはよしのイメージをそれぞれのグループで伝え合う活動をする。他者の考えに触発され、あるいは融合させ、さらにイメージをふくらませていくことが展開時の活動である「オリジナルおはやしづくり」という課題解決につながるものと考えからである。

仲間と試行錯誤しながら、速度や強弱を工夫し、自分たちのおはよしのイメージを表現する活動は、教師による意図的な編成の小グループ(3～4人)で行い、思いを伝え合う活動がよりスムーズに行えるように配慮する。

## 5 教材について

「小幡ひょっこばやし」茨城県茨城町

「エイサー」沖縄県

「長崎くんち」長崎県

「神田ばやし」東京都

「小幡ひょっこばやし」

おはよしの由来は戦国時代にまでさかのぼる。当時の小幡城主が勝軍地蔵をまつる鎮守・愛宕神社の祭礼の時に、領民におはやしをさせたのが始まりと伝えられている。

今では、祭礼などに山車の上で、ひょっこ・おかめ・きつねなどに扮しておはやしを披露する形となっている。

茨城町指定無形文化財である。

～茨城町商工会HP、茨城町観光協会HPから引用～

6 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
歌唱			
器楽			
創作			
鑑賞			
題材の 評価 規準	郷土の伝統音楽の和太鼓・鉦の特徴を感じ取り、音色・速度・強弱を工夫しながら、思いを伝え合って、おはやしのリズムをつくることに意欲的である。	郷土の音楽の和太鼓・鉦の特徴を感じ取ったり、歴史的な背景について理解したりしたことに基づいて、速度や強弱を工夫しながら、どのようなおはやしをつくるかについて思いや意図をもっている。	郷土の伝統音楽の和太鼓・鉦の特徴を感じ取り、音色・速度・強弱を工夫しながら、イメージに合ったおはやしのリズムをつくっている。
学習活動における 具体的 評価 規準	和太鼓・鉦や、おはやしの特徴について関心をもち、日本各地の郷土音楽を視聴することに意欲的である。 おはやしのリズムをつくるグループ活動において、思いを伝え合ってイメージに合うリズムをつくることに意欲的である。	おはやしのリズムをつくるグループ活動において、「小幡ひよっとこばやし」の和太鼓・鉦の特徴を感じ取り、「季節」と「祭りの目的」についての思いを伝え合いながら、音色・速度・強弱を工夫しながら、イメージに向かってアイデアを出している。	グループの発表会において、郷土の伝統音楽の和太鼓・鉦の特徴を感じ取り、音色・速度・強弱を工夫する技能を身に付け、「季節」と「祭りの目的」についての思いが伝わるおはやしのリズムをつくっている。

7 学習の評価の計画(3時間扱い)

次	ねらい	主な学習活動	具体的評価規準
第1次 (1)	日本各地の郷土の音楽と「小幡ひよっとこばやし」を聴き、特徴や気分を味わう。	「郷土の音楽を味わおう」 日本各地の郷土の音楽を「小幡ひよっとこばやし」を聴き、それらの特徴や音楽が生まれた背景について理解する。 和楽器とおはやしの特徴について理解する。 イメージに合ったおはやしのリズムをつくるための手掛かりとなる、音色・速度・強弱を理解し、おはやしづくりのための準備をする。	ア
第2次 (2) 本時は 第1時	郷土の伝統音楽の和太鼓・鉦の特徴を感じ取り、音色・速度・強弱を工夫しながら、思いを伝え合っておはやしをつくる	「我が町自慢『小幡ひよっとこばやし』のオリジナルおはやしをつくらう」 グループごとに、つくりたいおはやしのイメージを話し合う。 ・「季節」はいつにするか。	ア-



《予想される反応（季節 祭りの目的 = 雰囲気）》

- ・春 豊作を願って = どっしり, ゆったりした感じ
- ・夏 盆踊り = 元気で軽快な感じ
- ・秋 豊作を祝う = にぎやか, 喜びでいっぱい, はずむ感じ

(2) リズムづくりをする。

- ・ 4小節のリズム・パターンをつくる。

記譜の方法	
太鼓	
・ ドン(ド)	・・・ 右手
・ コン(コ)	・・・ 左手
・ スッ(ス)	・・・ お休み
鉦	
・ チャン	・・・ 中央
・ チキ	・・・ ふち

	1小節				2小節			
鉦	チャン	チキ	チャン	チキ	チャン	チキ	チキ	
締太鼓		カッ		カッ		カカ	カ	
大太鼓	ドン		ドン		ドン	ドコ	ドン	

 = 

記譜については伝承音楽に使われる口伝を用いることで生徒の苦手意識を和らげる。また、日常生活の中でゲーム等で太鼓をたたくことに慣れていることが予想されるので、グループ独自の言葉を使って記譜をしてもよいことを知らせる。

- ・ 活動が進まないグループには、リズム・カードを提示してその組み合わせを考えられるように支援する。

発展させた学習活動が期待できるグループには、五線譜にある笛の旋律を提示し、旋律が高音部(A)と低音部(B)からできていることに気づけるように助言する。その上で、高音部と低音部につけるリズム・パターンを変化させることも工夫の一つであることを助言する。

(3) つくったリズムを合わせながら、リズムを練っていく。

それぞれの楽器のリズムができあがってきたら、実際の奏法をイメージしながらリズム・アンサンブルをする。合わせる活動を通してリズムの練り上げをするように助言する。

- ・ 合わせる活動がうまくいかないグループには、必要に応じてメトロノームを使うことを勧めたり、教師が拍子をとったりして支援する。
- ・ 活動の様子を観察し、リズムがまとまったグループには、和楽器を使って練習をするように伝える。

おはやしのリズムをつくるグループ活動において、思いを伝え合ってイメージに合うリズムをつくることに意欲的である。

(音楽への関心・意欲・態度,  
観察・ワークシート)

- ・ リズムパターンがまとまってきたら、つくった作品にふさわしいタイトルをつけるように伝える。

<p>3 本時の学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のふりかえりをワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時には、作品のタイトルにふさわしいイメージになるように、音色・速度・強弱を工夫する活動をし、授業の後半にはグループ同士で作品を鑑賞し合うことを確認する。</li> </ul>
---	--

(4) 板書構成

我が町自慢「小幡ひよっこばやし」のオリジナルおはやしをつくろう



「ひよっこばやし」の旋律をリズムで伴奏しよう

季節は？	祭りの目的は？	どんな雰囲気？
春	お盆	軽快な
夏	秋祭り	ゆったり
秋	雨ごい	うきうき
冬	豊作祈願	にぎやか
	⋮	⋮

つくったリズムを記録しよう！

	1小節目	2小節目
鉦	チキ チャン	～
締太鼓	スッドッスッドコ	～
大太鼓	ドンドコドンドン	～

9 観点別評価の生かし方

【音楽への関心・意欲・態度】	
評価規準	評価方法・Cと判断される状況へのはたらきかけ・Aと判断される生徒
<p>ア - おはやしのリズムをつくるグループ活動において、思いを伝え合ってイメージに合うリズムをつくることに意欲的である。</p>	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループによる創作課程の話し合い(思いを伝え合う)活動やリズムづくりの活動に意欲的に取り組んでいるかを観察や演奏の聴取、各自のワークシートからみとる。</li> </ul> <p>【Cと判断される状況へのはたらきかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム・パターン等を提示し、リズムづくりの手掛かりとなるようにする。</li> <li>・グループの話し合いに積極的にかかわるよう促し、リズムづくりに一緒にかかわって認め励ましていく。</li> </ul> <p>【Aと判断するキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>楽器の特徴を生かしたリズムづくり</li> <li>リズムの組み合わせ方の工夫</li> <li>音楽全体のまとまりや構成を意識した発言・発想</li> </ul>